



大腸がんについて

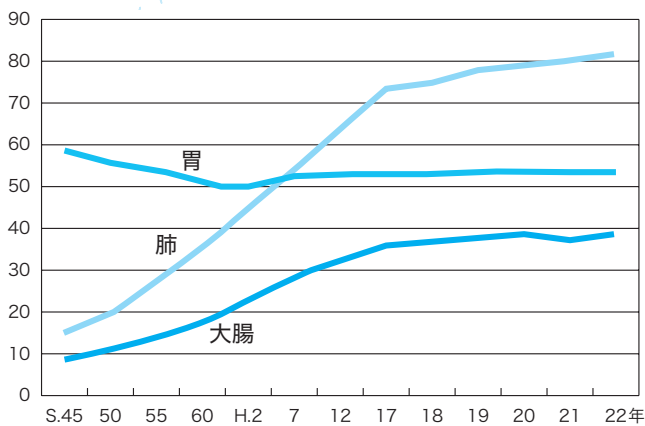


日本人の死因で、最も多い病気はがんです。その中でも大腸がんは近年急激に増加しています。大腸がんは元々日本人には少なかったのですが、食生活が肉食中心の欧米型になったことが、大腸がん増加の原因と考えられています。

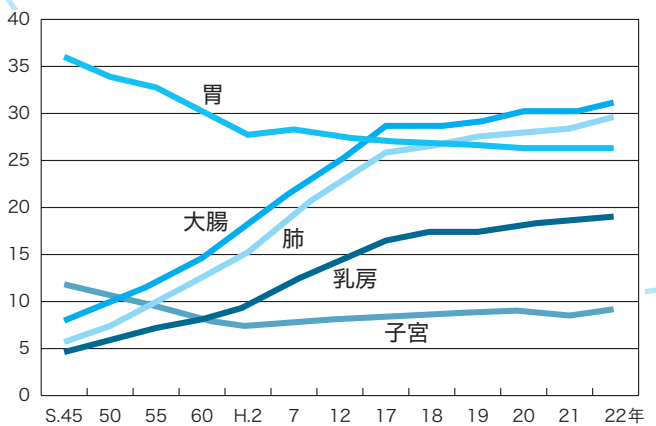
悪性新生物の主な部位別にみた死亡率の推移 (人/人口10万人あたり)

【資料：厚生労働省報道発表人口動態統計】

男性



女性



◇大腸がんの症状

大腸がんの症状としては、血便、下血、下痢と便秘の繰り返し、便が細い、便が残る感じなどがあります。痔などの良性疾患でも同じような症状があるので、早めに病院で受診することが早期発見につながります。

◇大腸がん検診

大腸がん検診は、問診と便に潜む血液の有無を調べる検査（検便）を行います。

40歳以上の人は毎年大腸がん検診を受けることで、大腸がんによって死亡する確率を約60～80%減らせるという調査報告もあります（出典：独立行政法人国立がん研究センターのリーフレット『大腸がん検診を受けましょう』）。

大腸がんは早期であれば、ほぼ100%近く治すことができますが、早期の段階ではほとんど自覚症状はありません。したがって、無症状の時期に発見することが重要です。40歳を過ぎたら、年に1回は大腸がん検診を受けるようにしましょう。

また、町では『がん検診無料クーポン券事業』を行っています。平成27年1月22日(木)、1月30日(金)、2月4日(水)にも検体の回収を行いますので、大腸がん検診をご希望の方は健康福祉課までお申し込み下さい。

問合せ 健康福祉課（常北保健福祉センター内） ☎029-240-6550